

■ドイツ：RWEとE.ONの2017年決算、両社黒字転換へ

ドイツの大手エネルギー事業者のE.ONは2018年3月12日、2017年決算を発表した。売上高は前年比0.5%減の379億ユーロ（約5兆円）、EBITDAは同0.3%増の49億ユーロ（約6,500億円）、営業損益（EBIT）は同1.2%減の30億ユーロ（約4,000億円）と前年実績とほぼ同じ水準になっている。一方、当期純損益は前年の84億ユーロ（約1兆1,000億円）の赤字から123億ユーロ（約1兆6,000億円）改善し、39億ユーロ（約5,100億円）の最終黒字に転換している。前年からわずか1年間で123億ユーロも最終損益が改善したことになるが、この業績回復は主に2016年決算でUniper上場に伴う簿価と公正価値の評価損として138億ユーロ（約1兆8,000億円）を計上した反動増や、2017年6月にドイツ連邦憲法裁判所が、原子力発電事業者3社が2011年に訴訟を提起した核燃料税について事業者の訴えを認め、政府に総計63億ユーロ（約8,300億円）の返還を行うように命じたことから、同社は33億ユーロ（約4,300億円）の返還金を受領したところによるものが大きい。また、同月13日、RWEも2017年決算を発表している。売上高は同2.7%減の445億ユーロ（約5兆8,000億円）となったが、2017年はトレーディング部門が好調だったことや、2016年に実施した従来型電源に対する減損計上の反動増などからEBITDAは同6.5%増の57億ユーロ（約7,500億円）、営業損益（EBIT）は同18.3%増の36億ユーロ（約4,800億円）となった。当期純損益については、E.ONと同様に核燃料税の返還金として19億ユーロ（約2,500億円）を受け取っていることも好影響をもたらし、前年の57億ユーロ（約7,500億円）の赤字から76億ユーロ（約1兆円）改善し、19億ユーロ（約2,500億円）の最終黒字に転換した。E.ONは2013年以降4期ぶり、RWEは2014年以降3期ぶりの最終黒字であり、さらに両社が同時に最終黒字を達成したのは2012年にまで遡ることになる。同月11日、両社は新たな電力再編につながる資産交換で合意に達したが、旧E.ON、旧RWE体制での最後の決算は両社とも黒字転換という結果を踏まえ、今後新たなステージに進むことになる。